

第 40 回日本・ＥＵ議員会議（結果概要）

参議院国際部

第 40 回日本・ＥＵ議員会議は、日本国会代表団 36 名、オブザーバー 3 名及び欧州議会代表団 12 名が参加し、令和 4（2022）年 10 月 31 日（月）及び 11 月 1 日（火）の両日、参議院議員会館・講堂において開催された。

会議は、あらかじめ日欧間の合意により設定された議題について、日欧双方が冒頭発言を行った後、参加者全員による自由討議を行う形式で進められた。

1. 第 1 セッション

第 1 セッションは、10月31日（月）午後 3 時から約 2 時間30分開催された。まず、議題 1「ウクライナ情勢」について「ウクライナ支援」及び「エネルギー危機」を討議し、次いで、議題 2「日本・ＥＵを取り巻く地域情勢」について「北東アジア情勢（中国、北朝鮮等）」及び「インド太平洋地域における日・ＥＵ協力」を討議した。議長は船田元日本国会代表団団長が務めた。

〈ウクライナ支援〉

日本側から、ロシアによるウクライナ侵略を非難した上で、世界がルールに反する国をけん制する必要性が訴えられるとともに、継続的なウクライナ支援の重要性について意見が述べられた。欧州側からは、ウクライナ支援における日本の立場を高く評価する旨発言があった上で、ＥＵによるウクライナ支援について説明がなされた。自由討議では、ウクライナへの支援の在り方、ロシアに対する非難や制裁を行っていない国々への働き掛け、中国の武力による現状変更に対する懸念、国連安全保障理事会の機能不全などについて発言があった。

〈エネルギー危機〉

欧州側から、日本とＥＵは共にエネルギー資源に乏しく、エネルギー価格高騰に対し同様の課題を抱えている旨の指摘がなされ、価格の引き下げに向けた協力の必要性、エネルギー利用の効率化、自然エネルギーの活用などについて意見が述べられた。次いで、日本側から、化石エネルギーに関するロシア依存からの脱却及び再生可能エネルギー分野における日ＥＵ間の協力について言及があったほか、自由討議では、ウクライナ侵略に伴うエネルギー危機への対応、ＥＵの水素戦略及び日本の水素活用の現状、脱炭素に向けた原子力発電の活用などについて発言があった。

〈北東アジア情勢（中国、北朝鮮等）〉

日本側から、ロシア、北朝鮮及び中国の最近の動向並びに台湾有事の可能性の高まりについて説明がなされた上で、抑止力としての防衛力強化の必要性について意見が述べ

られた。欧州側からは、北東アジア地域における緊張の高まりに対する懸念が示されたほか、ＥＵの中国に対する新たな戦略の策定、共通の価値観を有する国々の連携、中国への依存度を減らす必要性などについて発言があった。

そのほか、日本側から、ロシアによるウクライナ侵略がアジアに与えている影響、中国の人権問題、北朝鮮による拉致問題、核廃絶などについて発言があった。

〈インド太平洋地域における日・ＥＵ協力〉

欧州側から、貿易関係の多様化、新興技術、気候変動などにおける協力の観点から、ＥＵがインド太平洋地域との関係を強化する重要性は増しているとの意見が述べられた。日本側からは、インド太平洋地域へのＥＵのコミットメント及び同地域における日本との協力に対する期待が示されたほか、中国の台頭とＡＳＥＡＮ諸国及び台湾に関する危機感に関する発言があった。

２．第２セッション

第２セッションは、１１月１日（火）午前１０時から約１時間３０分開催され、議題３「日本・ＥＵ間の共通課題における協力（気候変動対策、デジタル化、物価高対策、グローバルヘルス等）」について討議した。議長は、クリステル・シャルデモーゼ欧州議会代表団団長が務めた。

〈日本・ＥＵ間の共通課題における協力（気候変動対策、デジタル化、物価高対策、グローバルヘルス等）〉

日本側から、今般の新型コロナウイルス感染症への対応の経験を基に、全ての人がワクチンにアクセスできるよう、世界的なワクチンの研究開発や量産体制の支援、資金調達スキームの整備といったグローバル・ヘルス・ガバナンスの構築に向けた日本とＥＵの役割及び協力の必要性について意見が述べられた。また、欧州側から、今後の日ＥＵ間協力において基本となる分野として、エネルギー・気候変動問題、グリーン技術及びインフレ財政が挙げられ、共通の目標や課題に対する協力の在り方や知見の共有について言及があった。自由討議では、デジタル化の推進及びサイバーセキュリティの強化、二酸化炭素排出削減に向けた取組、第三国支援における協力、ウクライナ侵略を受けた食料価格高騰への対応などについて発言があった。ＥＵによる日本産食品等に対する輸入規制に対しては、特に日本側から、日本の立場を説明した上で、科学的根拠に基づいた規制措置の撤廃を要請し、欧州側から、欧州委員会の動きを注視し、議論していきたいとの発言があった。

３．共同声明

第２セッションにおける討議の後、両代表団の協議を経た日欧両団長名の共同声明（別添参照）が承認され、両団長がこれに署名を行った。

4. 表敬訪問等

欧州議会代表団は10月31日（月）に尾辻秀久参議院議長及び細田博之衆議院議長をそれぞれ表敬訪問し、日本・EU関係に加え、世界を取り巻く諸問題について幅広い懇談を行い、11月1日（火）には西村康稔経済産業大臣、山田賢司外務副大臣、小野田紀美防衛大臣政務官及び角田秀穂農林水産大臣政務官をそれぞれ訪問し、意見交換を行った。また、欧州議会代表団は、10月31日（月）に小池百合子東京都知事と懇談したほか、11月1日（火）から2日（水）にかけて愛知県を訪問した。

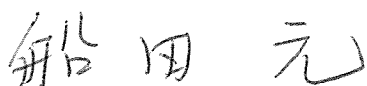
第40回日本・EU議員会議

共同声明

(2022年11月1日 東京)

第40回日本・EU議員会議に参集した日本国会と欧州議会双方の代表団は、2022年10月31日及び11月1日の東京における討議を終え、以下の共同声明を発表する。

1. 両代表団は、民主主義、法の支配、人権、基本的自由等の共通の価値及び理念を共有する日本とEUが、緊密なパートナーとして、国連憲章に基づく国際秩序に対する挑戦及び脅威が高まる中においても、アジア及び欧州地域の安定化に向けた連携を含め、引き続き国際場裏における協力を深化させていくことを再確認する。
2. 両代表団は、ロシアのウクライナに対するいわれのない、不当で、不法な侵略戦争に対し、最大限の強い言葉で非難するとともに、ウクライナ及びウクライナ国民との全面的な連帯を表明する。また、両代表団は、ロシアのウクライナ侵略に伴いエネルギー及び食料価格が世界的に高騰している状況を踏まえ、関係諸国がエネルギー及び食料の安全保障を強化するために共同した行動を取ることを期待する。
3. 新型コロナウイルス感染症時代の教訓を踏まえ、両代表団は、日EU戦略的パートナーシップ協定（SPA）第1条第3項の規定にのっとり、日本とEUの人々及び議会の間交流を引き続き促進することを決意する。



船田 元
日本国会代表団団長



クリステル・シャルデモーゼ
欧州議会代表団団長